

和白干潟を守る会 2010年度活動報告

2011.2.26 和白干潟を守る会事務局

**1. 和白干潟環境教育プログラムによる「自然観察会」を通して、多くの市民、特に子どもたちに自然の大切さを
実感してもらい、自然保護の気運を高める。**

1. 和白干潟自然観察会

2010年4月に観察会グループミーティングを行い、5月に観察会の案内状を保育園、小中学校、高校、公民館等へ送付した。観察会の依頼を受けると、事前に下見・打合せを行い、観察会に来る学校等でパンフレットやビデオを使った事前学習をしてもらった後、観察会を実施した。

2010年度中(1月～12月)の和白干潟自然観察会は、年間15回で、延べ798名の参加があった。学校関係からの依頼では、保育園4回(ちどり保育園、香椎保育所、玄海風の子保育園)179名、小学校2回(和白小学校)267名、中学校1回(筑陽学園中学)68名、高校2回(柏陵高校、福岡魁誠高校)99名、合計9回、613名あった。その他に、「ふくおか森の学校」、「韓国環境グループ」などの団体への和白干潟の観察会が4回、延べ108名あった。

またこの中で、守る会主催では「国際生物多様性年」記念イベントとして「初夏のアシ原を歩こう」を5月に、ラムサール企画の観察会「和白干潟の生きものやハマボウを見る会」を7月に開催し、77名の参加があった。

学校関係からの依頼は昨年と変わらず、ほぼ固定化しているが、和白小学校のように年間計画として実施したところもある。

ガイドの固定化と高齢化の問題に対しては、福岡市が推進するボランティアインターンシップ制度を活用し、一般からの参加を募ったが、参加者はなかった。引き続き、「あすみん」との連携を継続して行きたい。

本年度より、和白干潟自然観察会参加人数に、和白干潟を守る会のガイド数も含めている。

2. 和白干潟の自然観察ガイド講習会

2010年度はガイド講習会を実施しなかった。

3. 第22回和白干潟まつり

11/21(日)実施。「和白干潟まつり」は多くの人たちに来てもらい、干潟の素晴らしさと危機にある現状を知り、自然環境を守ることの大切さを認識してもらう目的で毎年企画している。生協の協力を得て今回で22回目を迎えることが出来、約400名の参加があった。この上ない晴天にめぐまれ楽しい一日となった。

今年は「国際生物多様性年」で名古屋での国際会議にもパネル展示で参加をしたが、まつりに参加した方々に身近な和白干潟をもっと知ってもらいたいと思った。観察会に来て下さった学校からの写真パネルの参加も、和白干潟に関心を持っていただく一助になればいいと思う。

今年も昨年に続き、最後に参加者一同名で「ラムサール宣言」を出し、環境大臣や福岡市長に送付した。今回の干潟まつりの特徴として、以下のようなことが挙げられる。

- ・第21回干潟まつりの反省会での意見をもとに新しい試みとして、来場者、出店者それぞれにアンケートを実施、まつりについての感想や意見を聞いた。
- ・今回はバザー出店者が少なかった。(今回は第3日曜日であったので他のイベントと重なった可能性もある)
- ・まつり案内チラシを周辺に配布、一定の効果があった。

- ・周辺公民館長あて案内状を持参した。
- ・初めて活動パネル展示を行い、自然観察会の様子や、干潟を守る会の活動紹介、干潟に関連した大学の研究の紹介なども行い、好評だった。

4. 和白干潟クリーン作戦と自然観察(毎月第4土曜日)

毎月第4土曜日午後3時から5時まで、海の広場から唐原川河口、和白4丁目の範囲をその時の状況に合わせて清掃し、同時に自然観察、水質や、砂質調査実施した。

年間12回、延べ763名が参加し、1,553袋のゴミを回収した。定例のクリーン作戦の他に、ラブアースクリーンアップ参加や和白干潟の生きものやハマボウを見る会、干潟まつりや臨時の清掃などに延べ273名が参加し、271袋を回収。全体では延べ1,036名が参加し、1,824袋のゴミを回収した。この内、守る会人数は、個人、会場整備、まつり、ハマボウ、合わせて延べ199名だった。

粗大ゴミは、自転車、タイヤ、布団、浮き、家具類、流木など、様々な物があった。

総括すると、昨年に比べ参加総人数は2倍強超え、又ゴミの量は4割増しとなっている。(右表参照)

2009、2010 クリーン作戦結果比較		延べ参加 人数(人)	ゴミの 量(袋)	
2009	クリーン作戦	12回	304	1,037
	その他	22回	165	262
	合計	34回	469	1,299
2010	クリーン作戦	12回	763	1,553
	その他	19回	273	271
	合計	31回	1,036	1,824
増加割合		%	220	140

- ・ 4月24日(土)のクリーン作戦は「干潟を守る日」と「春のビーチクリーンアップ」に参加。
- ・ 6月6日(日)は九州各県70ヶ所で行われる「ラブアースクリーンアップ」に参加。
- ・ 7月25日(日)和白干潟の生きものとハマボウを見る会では参加者で牧の鼻付近を清掃。
- ・ 9月25日(土)のクリーン作戦は「国際ビーチクリーンアップ」に参加し、ゴミデータ調査を実施。

< 1年を振り返って >

ゴミの回収量は前年に比べて約4割増えている。

アオサを省いたゴミの量は、前年と余り変わらないが、アオサの回収量は増えている。

2009年同じく、2010年のアオサも10月～12月と沿岸に漂着したが、アオサの回収量が増えたのは、この時期に、参加人数が増えたことによるものと思われる。

参加者数は学生や、特に企業からの参加が多く、一般の参加者は少なかった。

クリーン作戦後の交流会での意見を取り入れ、最初に「クリーン作戦の後に自然観察会がある」ことを説明するようにした。

プログラムと掃除範囲の地図を用意した。リヤカーを購入し、ゴミの運搬がはかどるようになった。

クリーン作戦の当日にはのぼりを立て目印にしている。

2. 和白干潟の大切さと保全の必要性を広く社会に訴えるため、和白干潟を取りまく自然環境の変化について、干潟およびその周辺の生物の調査、漂着ゴミ調査などの活動を継続し、調査結果を公表する。

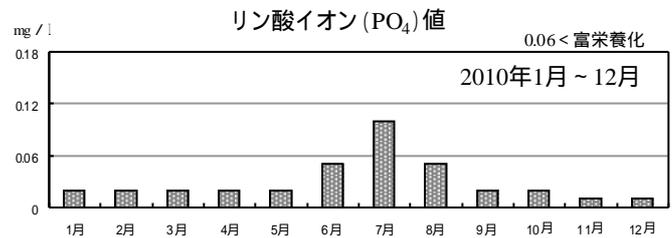
5. 調査

調査項目としては毎月実施する水質調査及び砂質調査、9月の国際ビーチクリーンアップ参加でのゴミ内容調査のほか、水鳥調査などを実施した。

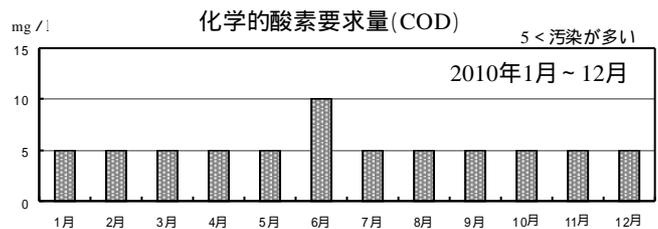
(1) 水質調査

水質調査は、毎月、リン酸イオン値(PO_4)、化学的酸素要求量(COD)、亜硝酸値(NO_2)、透視度の4項目について実施した。

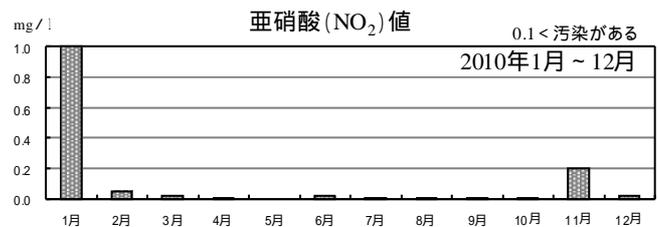
リン酸イオン値(PO_4)については7月に悪化したが、その他の月は0.01~0.05の間であり、例年同じような状態である。



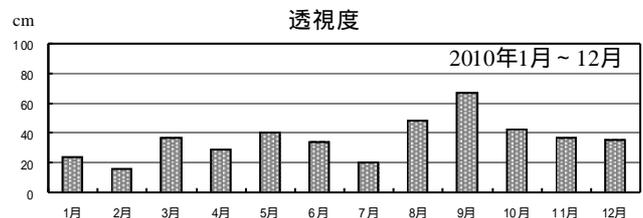
化学的酸素要求量(COD)は、毎年夏場には悪化する傾向にある。2010年度も6月には5を上回ったが、例年このような状態である。



亜硝酸値(NO_2)は海水の汚染度を表す。2010年度は、1月と11月に悪化した。1月については特に悪い状態にある。その他の月は、0.005~0.05の間にあり、「やや汚染がある」状態であるが、これは例年並みである。



透視度については、年間平均で30cmくらいであり、例年の和臼干潟の値を示している。



(2) ゴミ内容調査

9月の国際ビーチクリーンアップにて、干潟に漂着したゴミを回収して内容調査を実施した結果、43種類のゴミが回収された。特に多かったのは、プラスチックシートや袋の破片、食品の包装・容器、袋類・プラスチックなどであった。

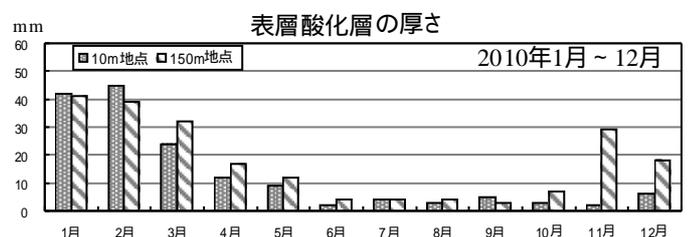
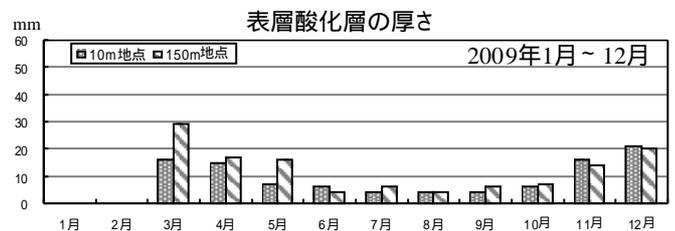
(3) 砂質調査

2009年3月から始めたもので、和臼干潟・海の広場前10m地点と150m沖合地点の表層酸化層の厚さと還元層の黒色度を測るものである。

表層酸化層の厚さが厚いほど干潟が健康な状態にあることを示す。

右のグラフは、2009年度と2010年度の表層酸化層測定結果で、夏場には数mmまで下がり、秋から冬にかけて厚くなる傾向にある。

調査結果から、沖合いの方が厚い傾向にあるが、2010年度の11月、12月は、アオサが堆積したことで、浜辺側が極端に薄くなっている。

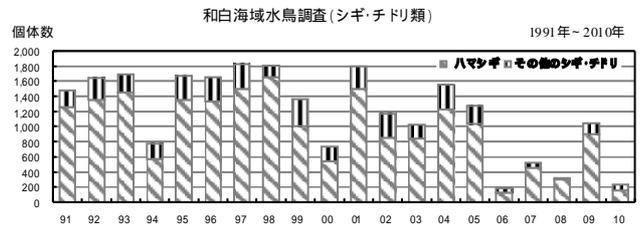
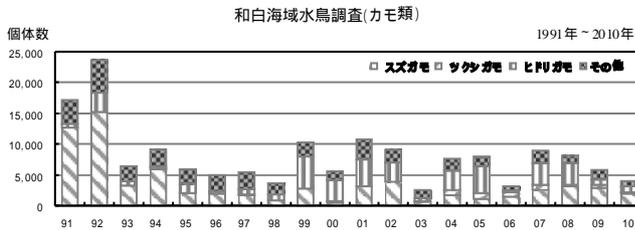


(4) 鳥類調査

鳥類調査では以下の調査に協力した。

1月 和白海域水鳥調査(日本野鳥の会福岡・IWRB 国際水禽湿地調査局)

和白海域の水鳥の越冬数(和白海域水鳥調査)は、カモ類は1992年の約23,719羽と比べて約10分の1の2,735羽に、シギ・チドリ類も1990年代の約1,600羽から7分の1の233羽に激減した。



環境省モニタリングサイト1000 シギ・チドリ調査(環境省・NPO 法人バードリサーチ)

冬期: 1~2月、12月 今津と博多湾東部各3回実施

春期: 4月~5月今津と博多湾東部各3回実施

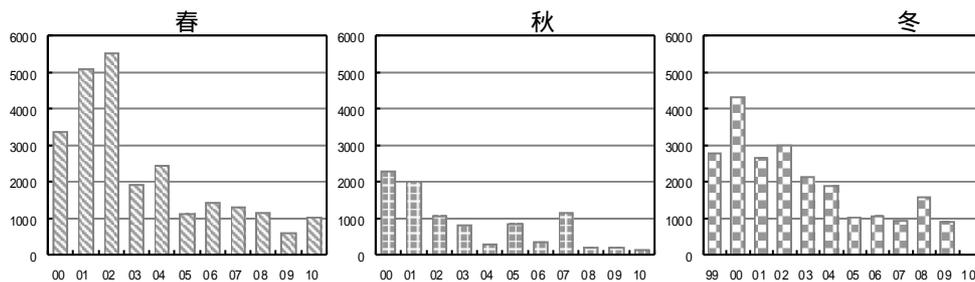
秋期: 8月~9月今津と博多湾東部各3回実施

博多湾東部海域のシギ・チドリ類最大数合計は、2009年度冬期は2000年の4,300羽から884羽に減少し、2010年春期は2002年の5,509羽から1,027羽に減少。

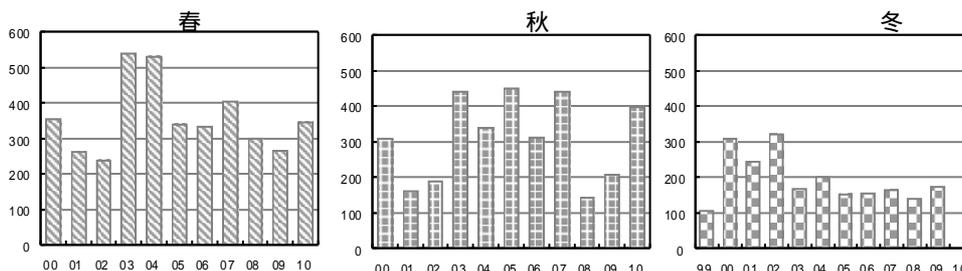
秋期は2000年の2,271羽から116羽に減少した。希少種では、冬期にクロツラヘラサギは最大17羽(昨年60羽)、ツクシガモ503羽(昨年711羽)、ズグロカモメ2羽(昨年5羽)をカウントした。

今津のシギ・チドリ類最大数合計は、2009年度冬期は2002年の319羽から171羽に減少し、2010年春期は2003年の538羽から345羽に減少。秋期は2005年の450羽から396羽へ減少。希少種では、冬期にクロツラヘラサギは最大27羽(昨年37羽)、ツクシガモ31羽(昨年47羽)、ズグロカモメ19羽(昨年23羽)をカウントした。

シギ・チドリ類最大個体数の合計(博多湾東部) 1991年~2010年



シギ・チドリ類最大個体数の合計(今津) 1991年~2010年



この20年ほどで博多湾東部の鳥類は大きく減少した。今津はやや減少している。2010年の鳥類調査参加者は、毎回7名から16名、延べ91名が参加した。また一斉調査以外にも個人で調査を行った。

7/16に NPO 法人バードリサーチの守屋氏との交流会を行った。

ミヤコドリは2010年に2羽が越夏した。

2010年秋の観察状況は、10/7に3羽観察、10/14に4羽観察、10/18に5羽観察、11/2に6羽観察、11/8に8羽観察した。(2009年は9羽観察した)

3. 2010年は国連の「国際生物多様性年」であり、多様な生物の宝庫として和白干潟をラムサール条約登録地とするための取り組みを強化する。

また、和白干潟の環境を保全するため、グリーン作戦に取り組むとともに、博多湾人工島事業の凍結・縮小を含めた和白干潟保全策を市民や関係機関に訴える。その為の広報にも力を入れる。

6. ラムサール条約登録をめざして

(1) 国際生物多様性年の取り組み

2010年は国連の定めた国際生物多様性年で、10月には名古屋市で「第10回生物多様性条約締約国会議(COP10)」が開催され、国内で様々な取り組みがあった。

和白干潟を守る会も、生物多様性の宝庫和白干潟を知ってもらう絶好の機会として、記念イベントなどを実施した。

- ・1/29 日本自然保護協会「生物多様性の道プロジェクトエントリーシート」送付
- ・2/14 COP10 プレイメント「生物多様性福岡セッション」に会員4名参加。
- ・3/10 環境省「生物多様性の保全のための民間活動の促進に関する制度の考え方について」の意見書提出。
- ・4/12 岩崎書店発行の「生物多様性と地球環境」第2巻日本の生物多様性:「シギやチドリが羽を休める干潟」の題で和白干潟を山本代表執筆、写真と共に送付。(10月発行、小学校の図書館向け)
- ・5/14 市民対象に国際生物多様性年記念イベント「初夏のアシ原を歩こう！」実施。福岡植物友の会野村先生を講師に27名参加。会員9名。
- ・10/13 国際生物多様性年記念として福岡工業大学附属城東高校「環境集会」で「和白干潟は生きている」と題して山本代表が講演。
- ・10/18~29 名古屋市で開催の「生物多様性条約締約国会議(COP10)」JAWAN ブースに英文パネル展示参加。
- ・11/21 「第22回和白干潟まつり」を「国際生物多様性年企画」として実施。約400名の参加。「ラムサール宣言」採択。参加者アンケートでラムサール登録について意見を問う。

(2) 和白干潟まつりラムサール宣言

11/21「第22回和白干潟まつり」で「第22回和白干潟まつりラムサール宣言」を出した。

1. 私たちはこれからも大切な和白干潟の保全活動と和白干潟の環境保全の啓発活動を続けていきます。
2. 福岡市に、博多湾全体のラムサール登録に先立ち、まず条件の整っている和白干潟のラムサール条約

登録を国に申請することを求めます。

3. 環境省に、和白干潟のラムサール条約登録に早急に取り組むことを求めます。

2010年11月21日

第22回和白干潟まつり参加者一同

上記宣言は福岡市長、環境大臣、環境省九州事務所に送付した。

(3) 自治体などへの働きかけ

ラムサール条約登録には地元自治体の推薦が必要なため、福岡市などへ様々な働きかけを行った。特に2010年は福岡市長選挙が行われたために、提言書を提出したり、候補者へのアンケートなどラムサール条約についての関心を高めてもらえるよう取り組んだ。

- ・8/9 福岡市長に「博多湾・和白干潟保全のための提案」提出。記者会見。
- ・9/9 市長からラムサール登録については登録条件すべてを満たしていない、地域の理解を深めていくことが必要、将来的な課題と回答があった。
- ・9/25 11月14日実施の福岡市長選挙立候補者8名へ「和白干潟保全に関するアンケート(ラムサール登録を問う)」実施。6名が回答。10/31回答結果を和白メールで会員に配信。
回答しなかった高島氏が市長に当選。
- ・11/21 和白干潟まつりで「ラムサール宣言」採択し、福岡市長、環境大臣、環境省九州事務所に送付。

(4) その他

- ・9/15 環境省ラムサール検討委員小林聡史氏に登録について問い合わせ。
状況について返事をいただいた。
- ・9/21 ラムサール登録について、環境省に問い合わせ。

7. 和白干潟の環境保全を目指して

(1) クリーン作戦の取り組み

・企業、高校生の団体参加が目だった。6月6日の「ラブアースクリーンアップ2010」参加のクリーン作戦はJA東部、城東高校、NPO福岡住まいの会、スターバックスコーヒーなど過去最多の184名が参加した。参加企業の社会貢献キャンペーンの一環として、新聞広告で和白干潟を守る会の紹介やクリック募金など知名度のアップにつながった。

家族ぐるみの参加、市内外からの参加も増えた。参加人数が増えたことでごみの回収量も増え、アオサの回収には若い人たちの力が大いに役立った。

・リヤカーの購入でアオサ回収、運搬の効率が飛躍的にアップした。

(2) 博多湾人工島事業に対する取り組み

- ・5/12 人工島の現状について議会報告会(外井市議)参加者10名。
- ・8/9 福岡市長へ「博多湾・和白干潟の環境保全のための提案」提出。参加者7名。
提案のポイントはラムサール登録と沿岸開発の規制、人工島事業による自然破壊の改善など。
しかしながら、回答は、期待に応えるものではなかった。
提案・回答について概要をホームページ、干潟通信に掲載した。
- ・12/16 人工島問題について議会傍聴(高島新市長の方針)。参加者2名。
人工島事業の見直しは行わず、積極的に進める方針。

(3) 広報の強化

和白干潟通信・パンフレット類

1・4・7・10月に「和白干潟通信」を計4回(93～96)各4,800～5,000部発行した。

編集担当者は6～7名、各号につき2回の編集会議を経て作成。印刷費用は、4回分で207,900円。これら93～96は、パタゴニア環境助成金を受けて作成(ロータリー印刷株)。配布先は、会員、マスコミ・行政関係、和白干潟周辺の家庭など。発送作業はみんなで行なった。

リーフレット類では、「和白干潟自然案内」(第7版)を2010年1月に1万部増刷(大成印刷株)。

また、「環境教育シリーズ」は、2006年に発行しているが、この間日本国内並びに世界的にもラムサール条約登録地情報等の更新もあったので、内容改訂を行い、2010年11月に第5版を1万部増刷した。

(ロータリー印刷株)

「クリーン作戦と自然観察」のお知らせポスターは、東区役所、東市民センター、コミセンわじろ、和白公民館のほか、今年度より周辺大学(福岡工業大学、九州産業大学、福岡女子大学)にも掲示を依頼した。

和白干潟通信やパンフレット類も東区内の公民館、亀の井ホテル、喫茶「ほっと」、藍の家、臨海リサイクルプラザ、パタゴニア福岡店、天神のギャラリー「風」、郵便局、セブンイレブンなどにも置いてもらっている。

和白干潟を守る会ホームページ <http://www14.ocn.ne.jp/~hamasigi/>

年間を通じ、会の行事予定や活動報告、和白干潟の生物などに関する情報を随時更新し、発信している。「最近の和白干潟」のページでは、生き物、植物、野鳥の写真や、観察会の様子など充実に努めている。「対外活動」では、講演や交流会、各団体からの表彰などの他団体との交流状況を掲載している。2010年より新しく「アートギャラリー」を設け、和白干潟の四季折々の移り変わりを山本代表(くすだひろこ)がきりえ作品にしたものを掲載するようにした。

また、新しい企画として2010年度より「和白干潟通信～愛して、わじろ」(PDF版)の掲載を始めた。これは今後とも継続していく予定。

イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」に参加

「幸せの黄色いレシートキャンペーン」に参加して3年目。イオングループが全国的に実施しているキャンペーンで、環境や福祉などのボランティア団体を支援するために、毎月11日に買い物したときの黄色いレシートを団体のボックスに投ずると、その1%相当額の商品がイオンから団体に寄贈されるという仕組み。

イオン香椎浜店内の「ジャスコ」(1階・食料品売り場、2階・衣料品売り場)と和白の「ホームワイド」のレシートが有効。期間は毎年3月11日から翌年2月11日。

「和白干潟を守る会」は2008年3月から登録された。2010年は、1月から12月までの12回のキャンペーンに各回3～5人、延べ41人がキャンペーン用タスキやジャンパーを着用して呼びかけた。

レシートのほかにカンパもいただいた。呼びかけの時、干潟通信とリーフレットを渡している。

(4) 講演会、学習会

和白干潟の重要性や、自然の大切さ、市民が活動することの意義などについて講演依頼があれば、山本代表が応じている。また、パタゴニア福岡店のキャンペーンで社員向け学習会の要請に応じ、事務局で対応した。

講演活動

- ・1/16 シンポジウム「九州の海を守るために私たちにできること」パネラーとして山本代表。守る会3名。
- ・6/2 福岡工業大学付属城東高校1年生と先生に講演「和白干潟の自然と保全活動」参加38名。守る会4名。講師：山本代表。
- ・6/5 「泉川はまぼうの会講演」参加29名。守る会5名。講師：山本代表。

- ・10/23 福岡工業大学付属城東高校講演「国際生物多様性年記念:和白干潟は生きている(和白干潟の自然と環境保全活動)」参加全校生徒、先生、2000名。守る会2名。講師:山本代表。

学習会

- ・4/22 パタゴニア福岡ストア「アースデイイベント講演会」守る会2名。
- ・9/14 パタゴニアキャンペーン学習会 参加15名。講師(守る会)3名。

(5)調査

和白干潟周辺の沿岸部の開発問題について現状調査を行い、和白干潟通信に問題を提起すると共に、市長宛提案の中で規制を提言した。

- ・雁ノ巣樹林の伐採で大型宅地開発。
- ・牧の鼻樹林で住宅建設、海岸に下りる道も閉鎖。
- ・産業廃棄物撤去後の山善跡地の活用(手洗い場の設置要望)。

(6)情報の発信:新聞や雑誌、他団体の会報等に会の活動予定や鳥情報、和白干潟の紹介を発信

- ・(財)日本自然保護協会(NACS-J)に年間スケジュール表を送付し、「自然保護」誌に「和白干潟のクリーン作戦と自然観察」、「ハマボウを見る会」、「和白干潟まつり」の掲載を依頼する。
- ・くすだひろこきりえ展「和白干潟の詩」臨海3Rステーション 3F ギャラリーにて(3/2~3/31)
- ・くすだひろこきりえ展「和白干潟の四季」パタゴニア福岡ストア3Fにて(4/1~4/30)
- ・くすだひろこきりえ展「和白干潟」レストラン「花もも」にて(5/6~5/31)
- ・福岡きりえ展(くすだひろこ作「和白干潟」テーマのきりえ3点展示)(10/26~10/31)

(7)取材協力:新聞社、テレビ局、ラジオ局、雑誌などからの取材に協力

- ・TVQ「経済NOW わが町ファイル」で取材(8/20)、放映(8/28)

8. 対外団体との交流活動、協力・参加活動

(1)和白海岸定例探鳥会

「日本野鳥の会 福岡」に協力・参加。毎月第2日曜日、計12回。
鳥類確認種最少23種(7月)~最大53種(12月)。

(2)JAWAN・JEAN・ラムネット

- ・4/24 JAWAN「干潟・湿地を守る日2010」クリーン作戦と自然観察で参加。22名。守る会11名。
- ・COP10のNGOパネル展示にJAWANの一員として共同参加(10/18~29)
- ・JAWAN 泡瀬干潟埋め立て再開への抗議に賛同メール(8/16)
- ・JEAN「国際ビーチクリーンアップ」(9/25)参加42名。守る会10名。
- ・ラムネットのウエットランドパネル展に和白干潟の写真を4枚送付。(12/21)

(3)グリーンコープ

- ・和白干潟まつり共催(11/21):実行委員会2回(9/3、11/5)
- ・「遺伝子組み換えナタネ抜き取り隊」3回実施(11/10、11/11、11/29) 参加5名。
- ・「容器包装リサイクル法改正」に向けての署名活動に賛同。

(4)福岡市・福岡県

福岡市ボランティアインターンシップ関係

ボランティアインターンシップによってクリーン作戦に継続して2名参加されたことは成果の一つである。

- ・2/20、21 あすみんフェア参加3名。
- ・3/11 ボランティア・インターンシップ事業受け入れ団体意見交換会参加2名。

- ・8/31 ボランティアインターンシップ参加者説明会参加者1名。守る会3名。
 - ・9/7 ボランティア・インターンシップ受け入れ団体説明会参加2名。
 - ・11/7 市民局「NPO・ボランティア団体活動基本調査」記入送付。
- エコパークゾーン水域利用連絡会議(事務局:福岡市港湾局管理課)
- ・3/24 「エコパークゾーン水域利用連絡会議」守る会3名。
 - ・8/21 H22年度第2回海上安全指導パトロール参加10名。守る会1名。
- 和白干潟保全のつどい(構成団体:福岡市港湾局環境対策課、和白干潟を守る会、ウェットランドフォーラム、NPO循環生活研究所、藤井暁彦氏)
- ・定例会議(毎月第2木曜)。計12回。守る会は各回3名~7名出席。
- 定例会では各団体の活動報告や共に取り組むイベントの検討、問題点の質疑など意見交換している。守る会は雁ノ巣樹林の宅地開発に関して質問、規制できないかの意見を述べた。
- ・2/6 「バードウォッチングin和白干潟」73名参加。守る会8名。
 - ・4/17 「アオサ回収によるアサリの生息の観察会」23名参加。守る会8名。
 - ・5/31、6/1 五丁川河口の植物調査。守る会2名。
 - ・7/25 「夏休み!和白干潟の生きものやハマボウを見る会」参加49名。守る会9名。
 - ・「和白干潟のアオサお掃除大作戦」(8/28、9/11、9/23、10/9)計4回。参加延べ205名。守る会24名。

福岡県との連携

- ・1/23 県環境部環境政策課よりエコ活動アンケート聞き取り取材。
- ・2/13 地域づくりネットワーク福岡県協議会第2回福岡ブロック会議参加1名。

(5)交流

- ・2/16 観光庁「地域遺産の管理・活用に関するアンケート調査」に記入送付。
- ・2/17 ラムサール条約事務局リュウ・ヤン氏和白干潟案内。2名。
- ・7/16 シギ/チドリ調査取りまとめの「バード・リサーチ」守屋氏と交流会。参加5名。
- ・10/15 「NPO クリーンふくおかの会20周年記念パーティ」と「ラブアース」反省会。参加1名。
- ・11/9 パタゴニアキャンペーン結果発表会&交流会参加30名。守る会4名。
- ・11/10 干潟案内。屋久島うみがめ館から2名。守る会1名。
- ・12/17 「韓国グリーン慶南21推進協議会」委員16名を和白干潟ときりえ館案内&交流会。守る会2名。
- ・12/28 韓国グループ19名を和白干潟ときりえ館案内&交流会。守る会3名。

9. 「和白干潟を守る会」運営に関して

(1)定例会議・総会(毎月第4土曜日)

毎月原則として第4土曜日、守る会事務所で「定例会議」を12回開催。そのうち2月は「総会」として開催した。出席者は各回13~20名。平均15名出席。総会で活動方針を決めるほか、会の活動に関する報告を共有化し、重要な事項は定例会議で審議し決定した。また、事務局会議を年度末に開催した。会の円滑な運営のために事務局会議は必要に応じて開催する必要がある。

(2)販売・贈呈

- ・観察会に来た学校・公民館等に和白干潟の写真集・ラムサールパンフを贈呈。また、他団体の出版物なども委託販売したり、贈呈した。
- ・和白干潟のきり絵カレンダー(1枚もの)を100部制作、和白干潟まつりで販売した。

(3)助成

これまで支援していただいた企業のほか、2010年度は環境貢献の功績を認められ2つの大きな賞(社会貢献支援財団「海の貢献賞」、ソロプチミスト日本財団「環境貢献賞」)を受賞し、賞金をいただくことができた。

イオン

- ・「イエローレシートキャンペーン」で46,600円のカード提供を受けた。(4/12)

パタゴニア

- ・環境助成金として278,000円。
- ・福岡店で顧客による投票で支援団体への助成を決める「Voice Your Choice」で20万円。(12/28)

キャノンマーケティングジャパン(株)

- ・活動支援金20万円。
- ・クリック募金2回(2011年1月 66,326円、2011年4月予定)
- MS&AD インシュアランスグループホールディングス (10/22)10万円
- 社会貢献支援財団「海の貢献賞」(11/15,16) 50万円
- 国際ソロプチミスト福岡「クラブ賞(環境貢献賞)」(5/19)5万円
- (財)ソロプチミスト日本財団「環境貢献賞」(11/25)30万円

(4)寄付・寄贈

- ・会員や一般市民から会費納入、観察会、干潟まつり、望年会オークション等でカンパを受けた。
- ・福岡工業大学附属城東高校の先生からクリーン作戦用ゴミ袋100枚寄付

(5)2010年度の新規会員

- ・個人 11名(山下正毅、久保田永太、山田壽子、船木久江、内山國豊、惣田晴代、河村美智子、久保田勝男、首藤秀明、佐藤恵美子、出口千恵子)
- ・団体 1団体(特定非営利法人 くすの木自然館)

(6)2010年度末の会員数(新規会員も含む)

- ・個人 284名
- ・団体 8団体

10.パンフレット類の在庫

2010年12月末のパンフレット類の在庫数は、概略次の通り。

- ・「和白干潟を守る会」入会案内 : 1,800部
- ・和白干潟自然案内 : 6,900部
- ・環境教育シリーズ (和白干潟の環境教育プログラム) : 1,600部
- ・環境教育シリーズ (和白干潟で見られる水鳥、底生動物、植物図鑑) : 9,800部
- ・ラムサール条約と和白干潟 : 209部
- ・未来につなごう和白干潟～和白干潟を守る会 20年のあゆみ : 216部

11.その他

- ・海の中道海浜公園委託の鳥類調査に協力(毎月1回)(山下、山之内、田辺、平山)
- ・片岡さん篠栗ピクニック送別会(3/18)14名参加
- ・望年会参加者14名(12/24)・大掃除参加者13名(12/25)